

第170回青森県立図書館協議会 会議概要

1 期日

令和6年9月12日（木）

2 開会

午後1時30分

3 閉会

午後3時

4 場所

青森県立図書館（青森市荒川字藤戸119-7）4階 研修室

5 議題

- (1) 令和6年度組織目標における取組状況（上半期）及び次年度の取組の方向性について
- (2) 短期行動指針の進捗状況について
- (3) 第75回北日本図書館大会青森大会について
- (4) 図書館利用に関するアンケートの実施について
- (5) その他

6 出席者等

(1) 出席委員の氏名

安田 奈津子委員、今井 邦子委員、須藤 紀子委員、浜田 祐子委員、
秋元 宏宣委員、澤田 尚委員、伊藤 友子委員、小泉 敦委員

(2) 欠席委員の氏名

竹浪 廣美委員、本間 維委員

(3) 出席した職員

仁和館長、岡村副館長、油布奉仕課長、葛西近代文学館室長
企画支援課：奈良岡副課長、前田副課長
奉仕課：原田副課長、木村副課長
近代文学館：石岡副室長
教育庁生涯学習課企画振興グループ：今社会教育主事

議題に対する委員の主な意見・要望等

1 令和6年度組織目標における取組状況（上半期）及び次年度の取組の方向性について

○委員

学校現場に長く勤務していたので、県立図書館が学校図書館に支援しているということは知っている。学校現場のマンパワーが足りないということから考えると、とてもいい取組だと思っている。

郷土資料の収集・保存について、必ずしも県立図書館で行う仕事ではないと思うが、青森県の現状を考えたときに、郷土館が休館している。総合的な博物館、歴史総合資料館がない中で、郷土資料の収集は大事な事業だと思っている。

そこで、今どのような郷土資料を収集しているのか、また、寄贈資料は、地域の資料館や教育委員会では賄いきれないものを県立図書館で収集しているのか、どのような関係で収集活動をしているのか伺いたい。

■事務局

県立図書館の郷土資料の収集については、まず、県内で出版された図書及び青森県に関係する内容の主題の図書を中心として集めている。官公庁等の行政資料、新刊発行される中から青森県関係のものを探して収集している。寄贈については、例えば新聞や雑誌等に掲載される青森県関係の刊行情報などを基に、刊行先に連絡を取り、入手可能か働きかけをして入手する場合もある。県立図書館に寄付してくださる資料の受け入れをしたりもしている。

また、年1回、県内出版物調査として、県内官公庁及び関係各位に出版情報の調査を行っており、それを基に収集をしている。その際に、市町村その他で収集しているところを埋めるというよりは、青森県全体を網羅するような形で保存に努めるということから、重複する形にはなるが、全般的に収集するというような形で行っている。

○委員

郷土資料の収集とは書籍の収集ということか。様々な、原点となるような資料収集もしていると思っていた。そのような資料も県立図書館で保管していると思うがいかか。

■事務局

もちろん資料は本だけには限らないものではあるが、保存をするという上で、例えば博物的なものだと収集するのは博物館・郷土館であるとか、どこが収集するかという棲み分けがいくつかあるので、図書館だとやはり図書が中心的になると思う。

○委員

行政資料とはどんな資料か。

■事務局

官公庁、例えば県の報告書、調査統計で発行する本、冊子などである。

2 短期行動指針の進捗状況について

○委員

市町村教育委員会の立場からの感想だが、市町村への支援に関して、小さい町の小さな図書館の運営について、いろいろとご指導いただいているということ伺った。いわゆる専門性を有した方がなかなかいないというところがあるので、そういった中で指導していただければありがたいと思う。当町立図書館は指定管理となり、職員の資質向上というところが大きな課題となっているので、今後、更なる専門性の向上のため、大いに活用できるようにしていきたいと感じた。

学校図書館の支援に関してだが、おそらく今後も学校の統廃合が進んでいくのかなと思っている。進んでいくに当たって学校図書館のあり方をどのように考えていけばいいのかと感じるところもあるので、その辺りも相談しながらやっていけたらいいのかなと思った。

○委員

小学校という観点から、学校図書館について日頃考えていることをお話ししたい。私自身、以前に学校図書館シンポジウムの方にも出席したことがある。また、学校でも、学校図書館アシスト事業プラスのチラシや文書をよく目にしている。

学校図書館シンポジウムに関しては、出席すると、学校図書館がいかに大切かということとはよくわかるが、出席している教員数も少なく、参加者等を広げていかなければならないなと感じている。また、そこで学んだことを活かしたいが、学校の現状から、なかなか教育活動のメインの場に学校図書館が挙がってこないという部分があり、その位置づけを学校がいかに意識して教育活動を進めていくかが非常に大きいと思っている。実際に教員は多忙で、学校図書館の運営に関しては、司書教諭と学級担任をしている先生が兼務している場合も多く、学校図書館の整備にまで気持ちが回らないという現状があるので、学校司書の配置が進んでいけばよいと思っている。例えば、拠点の形で配置をし、いろいろな学校に行って支援してもらえるなど手厚い支援があれば、学校の教育活動の中心になっていくこともあるのではないかと感じていた。

学校図書館アシスト事業プラスも、ぜひ本校でも活用してみたいと思っている事業の一つであり、活用することで先生方の多忙化の軽減につながればと思っている。具体的にどんな支援をしているのかが分かれば先生方に提案しやすいので、その部分を

教えてもらいたい。

■事務局

多く寄せられる相談は除籍に関するものになる。古い本がたくさんあってどれを除籍したらいいかわからない、新しいものも買いたいけれども新しい本を入れるスペースもないとの悩みが一番多く寄せられている。実際に学校へ伺うと、いつの時代のものかと思うような本もたくさん見受けられたり、状態もあまり良くなく破損しているような本も子どもたちに読まれるのでなかなか除籍できない、かといって新しく買い替えられないというような悩みもあり、好ましい状態ではないところをよく目にする。

私達からは除籍のための基準の考え方を助言する。SLA、全国学校図書館協議会というところが除籍の基準を作っているので参考になるとか、新しい情報を子どもたちに提供するのが必要だということとか、そういった話もしている。時間があればいくらか除籍をしたりもしている。時間が限られているので、手順の確認や手続きの方法についての助言を行っている。

○委員

除籍の話を知ったので参考になった。

○委員

地域学校共同活動推進員をしている。最近、学校の方を回って、2つの小学校から、学校図書の破損の修繕をやってもらえないかという依頼があった。その学校の支援員や地域の方にボランティアを募って修繕作業をしたが、そのことを町の図書館長に話したら、図書館の修繕の仕方は全然違うとのことだった。専門的な修繕の仕方を教えてもらえないかと依頼したが叶わなかった。人材を回してあげられる余裕がないというのも正直なところだと思っている。そこで、学校図書館アシスト事業プラスの中で、学校で本の修繕のためのボランティア活動をする時に、専門的な修繕の仕方など指導していただけたらいいと思っている。

■事務局

アシスト事業プラスでは、そういったお話をいただいて伺うこともある。ただ、考え方として修理して物を大事に長く使うというのは大事だとは思いますが、修理に値するかどうかというところもあり、手間をかけて修理するのがいいのか、新しいものに更新した方がいいという考え方も一方であるので、ケースバイケースなのかなと思っています。修理に関して希望があるということであれば、日程調整した上で、何人か集まっていたら、このような場合はこのように直せます、補修できますというような形でお話をさせていただけるかと思う。

また、市町村の図書館職員向けに、3年に1回、本の修理をテーマに研修会も行っている。実際に専門的なでんぷんのみを使っての修復も行っている。ただ、日常でそ

れをやるかという限られた人員、時間でもあるので、必要な手当をするに至らないものに関しては極力手間を省くやり方を考えるとか、そういったところでの仕分けをしている実態もあるので、どういうふうな資料の管理の仕方がいいかというところも含めての研修も用意している。機会があればぜひそちらの方も受けていただきたい。

3 第75回北日本図書館大会青森大会について

○委員

中学校で図書館司書をしている。北日本の図書館大会に参加して、大変素晴らしい講演を聞いたと思っている。私達は本を貸す、本を読んでもらうという方向だけを考えていたが、吉成先生が取り組んだ、本を通して地域の方々が集まる、そこから本への興味が広がり、輪が広がり、活動が広がるということに感銘を受けた。

学校図書館でも調べ学習などで利用してほしいが、今は1人1人にタブレットが渡ったので、調べ学習はタブレットで行ってしまう。これからの図書館の役割を考えたとき、吉成先生の、集う場所、本を通して集うというのが、これからの図書館を活性化させるヒントになるのではないかと思った。

早速、夏休み前に試みで図書館にパズル等をたくさん置いてみたところ、利用する生徒がすごく増えた。普段図書館なんか見向きもしないで通り過ぎてしまう子が、人が集まってなんか面白そうだということで図書館に入って来て、そして書架を見て本に触れるという、少し図書館の意識が作れたのかなと思っている。

また、4つの図書館の事例報告を聞き、皆一生懸命取り組んでいて、自分も頑張らなければと意欲付けをさせてもらい、大変素晴らしい経験をさせていただいた。

4 図書館利用に関するアンケートの実施について

○委員

アンケートは大変よい試みだ思うが、県立図書館では今まで実施したことがなかったのか、また、集計している8月末で終了するのか、今後どのように活用していくのか。アンケートを組織目標に反映するとの説明があったが、どのように活用したいと思っているのかお伺いしたい。

■事務局

アンケートは平成20年度に実施したが、この度、久しぶりに実施したところであり、今後も続けていきたいと考えている。サービス改善を検討するにあたり、一旦集計を区切り、館内の関係部署の方でそれぞれ何ができるのかを検討しながら、早ければ来年度にも改善できたらと考えている。

○委員

あと、短期行動指針を組織目標と一体化させて改善に繋げていくとの説明があったが、どのように繋げるのかをお伺いしたい。

■事務局

短期行動指針だと3か年のスパンの中で進めていくということになるが、今回実施したアンケートによる現時点での生の声を、速やかに対応できる場所があればすぐに改善していきたいと考えている。

5 その他

○委員

「子どもの読書活動の支援」というところでお話ししたい。私は家庭教育支援チーム「しるくはあと」の活動をしており、9月3日に絵本作家のサトシンさんという方を招いてのおはなし会を、八戸市の家庭教育支援団体からの紹介もあって開催することができた。周知期間が2週間しかなく、初めての開催でどのくらい集まるのか自信がなかったがたくさんの親子が来てくれて、何より子どもたちがとても喜んでくれていた。

県立図書館や市町村の図書館も、地域の家庭教育支援団体などの方々と繋がって企画ものやイベント的なものを、子どもたちが喜ぶことなので実施した方がよいのではと思った。

○委員

要覧を見ると、利用登録者の令和5年度の実績が減っている。職員の皆さんは他のイベントに出向いて利用登録してもらったりすごく頑張っていたと思うが、登録者数が減ってしまったのには何か要因があるのか。

■事務局

令和4年度から図書館システムが新しくなり、集計方法が変わったことによって、新規そのものが8,685という数値になった。

○委員

初めての参加で、運営という部分のところを念頭に置きながら話を聞いていた。SNSを活用していくというところは、どんどん取り組んでみてもいいのかなと思った。

あと、図書とか、限られた部分でいろいろな展開をしていくと、何か考え方がどうしても狭くなるので、いろいろな形で広げていくのに、もっと美術の部分とか音楽の部分とか、意外に多方面のところと一緒にあって、考え方を少し角度を変えて組み入れていくと、また新たなものが見えてくるのかなというふうに考えながら参加させていただいた。

○委員

一つ目として、近代文学館の企画展について、校歌がテーマということですのでごく楽しみである。五所川原市立図書館は今年度、学校の校歌、ピアノ譜と児童が歌っている音源をデジタルアーカイブにアップすることを目標にしている。当市では閉校になってしまう学校が今年度あり、学校の歴史が消えてしまっていくことに直面している。学校は皆の心の中に強い思いがずっと残っていく大事な場所であるので、それを図書館で大事に残していきたいと思っている。企画展での校歌の展示の仕方や、展示する資料を学ばせてもらい、それを当市の図書館のデジタルアーカイブの中で、学校の歴史を残す方法を追加して考えたいと思っている。

二つ目として、組織の大きさや人材に制限がある中で、図書館が何の資料を収集するのかというところを考えている。当市も歴史民俗資料館が廃止になってしまって、民俗資料、古文書、古い時代の新聞など、うまく活用されないまま閉じてしまった。図書館でせめて何かできないか、学芸員と図書館司書とで話をしながら検討している。県立図書館まで足を運べない人のために新聞は残していくということで、東奥日報を残しているが、当館になかった明治や昭和初期のものが、歴史民俗資料館で五所川原の記事をスクラップしたものを持っているというのを初めて知り、それを図書館で保存して歴史を守っていこうと動き始めている。図書館を維持していくのが非常に難しくなっているというのを体感している中で、図書館協議会に参加させていただき、県立図書館が持っている資料や、目指す取組を教えてもらっているので、当市だけで解決できないことは、県立図書館のこういうバックアップがあるというのを力にして、できることを五所川原ではやっていきたいなと強く思った。

○委員

閉校の話に関して、おそらくそれぞれの学校で閉校記念誌を作っており、その学校の歴史が全部載っているかと思うので、記念誌がこれからの資料として残っていくのかなと思う。記念誌が県立図書館にあると、また足を運んでみようかなということにもなるかと思うので、校歌と合わせて記念誌の収集について検討をよろしく願いたい。